

日蓮大聖人御書全集

けかじょうじゅごしょ

華果成就御書

新版

1210

ς

1211

けかじょうじゅごしょ

華果成就御書

こうあんがんねん

がつ

さい

じょうけんぼう

ぎじょうぼう

弘安元年 ('78)

4月

57歳

淨顕房・義淨房

その後、なに事もうちたえ申し 承らず 候。

のち

ごと

もう

うけたまわ

そらるう

にさつ書

遣

さては建治の比、故道善房聖人のために一札かきつかわ
し奉り候を、嵩が森にてよませ給いて候よし、悦び
い

入つて候。

ね 深 時

えだは 枯

みなもと

みづ

たとえば、根ふかきときんば枝葉かれず、源に水あれ

なが

乾

ひ

薪

欠

絶

そうもく

だいち

ば流れかわかず、火はたきぎかくればたえぬ。草木は大地な
くして生長することあるべからず。

にちれん

ほけきょう

ぎょうじや

ぜんあく

にちれんぼう

日蓮、

法華経の行者となつて、善惡につけて日蓮房・

にちれんぼう

謳

ごおん

こししよう

どうぜんぼう

ゆえ

日蓮房とうたわるるこの御恩、さながら故師匠・道善房の故にあらずや。

にちれん

そうちく

しそう
だいち

日蓮は草木のごとく、師匠は大地のごとし。

か

じゅ

ぼさつ

じようしゅ

しにん

いち

じようぎょう

彼の地涌の菩薩の上首、四人にてまします。「一に上行

な

ないしし

あんりゆうぎょうぼさつ

な

うんぬん

まっぽう

と名づけ乃至四に安立行菩薩と名づく」云々。末法には

じようぎょうしゅつせ

たま

あんりゆうぎょうぼさつ

しゅつげん

たも

上行出世し給わば、安立行菩薩も出現せさせ給うべき

か。

稻

はな
みじょうじゅ

からら

こめ

せい

だいち

されば、いねは華果成就すれども、必ず米の精、大地に

おさまる。故にひつじおいでて、一度、華果成就するなり。

にちれん ほけきょう ひろ くどく かなら どうぜんぼう み き
日蓮が法華經を弘むる功徳は、必ず道善房の身に帰すべし。あらとうと、とうと。

でし 持 時 していぶつか 惠 でし
よき弟子をもつときんば、師弟仏果にいたり、あしき弟子をたくわいぬれば、師弟地獄におつといえり。師弟相違せば、なに事も成すべからず。委しくはまたまた申すべく候。

つね 語 合 していじごく 隘 していそうい
常にかたりあわせて、出離生死して、同心に靈山淨土にてうなづきかたり給え。經に云わく「衆に三毒有りと示し、

頷 語 たま きょう い
しゆ さんどく あ しめ

じやけん

そう

げん

わ

でし

ほうべん

また邪見の相を現す。我が弟子はかくのゞ一とく、方便もて
しゅじょう ど うんぬん さきさきもう おんこころえ そういうう

衆生を度す」云々。前々申すごとく御心得あるべく候。

あなかしこ、あなかしこ。

こうあんがんねんつちのえとらうづき

にち

にちれん

かおう

日蓮

花押

弘安元年 戊寅卯月 日

淨顕房

じょうけんぼう

義淨房

ぎじょうぼう